

2006年5月31日グループ研究議事録

発表担当者：元島、小林、田中

議事録記入：豊島

議題

ランドスケープとは何か。

どういったものがランドスケープデザインと呼べるのか。

批判的地域主義とは何に対する「批判」なのか。

発表班の考察

批判的地域主義とは、モダニズムともポストモダニズムとも違うもの

批判的地域主義とは、現代の場所志向的文化の育成に努めるものである。

批判的地域主義の建物が増えるにつれ、資本主義の波に巻き込まれているのではないか。

議論の展開

◆モダンとランドスケープの違い

モダン：もともとある土地を整地してから建築

ランドスケープ：その土地を生かす

その地域のランドスケープを守る

その地域に配慮したデザイン

敷地を築くこと

◆「批判的」とは何か

※その意図をつかみとる事は難しい

・モダニズムと地域主義に対する批判

モダニズムの普遍的デザインに対する嫌悪

→地域の特性を活かしていない

地域主義に対する批判

→ただそのまま活かすのはいけない

※いように批判しているだけではないか

・単なる懐古主義に陥らない

→昔のものをすべて踏襲するわけではない

・現代技術の重視：現代の素材を用いた新しいものの提案

例) コンクリートの使用

◆ランドスケープの検証

(1) ボッタ リヴァ・サン・ヴィターレ

単なる懐古主義なのではないか

(2) 安藤忠雄 Water Temple

地下に埋めてしまった結果住みにくいものに

→住む(使う)人が優先か、景観が優先か

その「奇抜」さゆえに、寺とは言い難い

「普遍性」の追求、コンクリートの使用はモダンの考えではないか

記入者の考察

議論においては、ランドスケープについて主に取り上げられた。ランドスケープは、地域批判やモダニズムの批判に重きが行われているが、結局はそれらの枠内から抜け出す事ができていないのではないだろうか。ゆえに、多くの人々がランドスケープ建築に対して積然としない印象を抱くのではないだろうか。